土浦市議会　創政会　行政視察報告書

長崎県長崎市・福岡県中間市・福岡県大野城市

（平成 30 年 11 月 12 日～14 日）

・内田　卓男	・矢口　　清	・海老原　一郎
・篠塚　昌毅	・小坂　　博	・下村　壽郎
・島岡　宏明	・塚原　圭二	・勝田　達也

中間市議会　議場にて

視察先	長崎県長崎市
視察日	平成 30 年 11 月 12 日
内　容	長崎市まちぶらプロジェクトについて
目　的	土浦市の中心市街地活性化のための一つの手法として、都市計画を作成する前の段階から、市民を集め、会議の場に実行者、計画者、専門家であることを伏せて実施する。その後会議に専門家が計画を立て、次の会議の意見をまとめる。このとても興味深い手法を土浦市に導入できるかを検討する。
説明者	長崎市まちづくり部まちなか事業推進室

長崎市、長崎市まちぶらプロジェクトについて

1.目的

長崎市は海の入江と山が多く土地が狭く市街地が広がる要素も乏しい中、中心市街地活性化のために長崎市の歴史的な街並みを生かして、街並をキャンバスに絵を描くように新たにデザインをして、町全体を博物館のようにしていくような計画です。

2.対象区域

新大工エリアから浜町・銅座エリア、大浦に至る地域、新大工エリア、寺町・丸山、浜町・銅座エリア、館内・新地エリア、東山手・南山手エリアと五つのエリアをそれぞれのコンセプトで計画的に整備するものです。

3.地域力によるまちづくり

地域の市民自ら企業、行政、NPO等と連携を図りながら、その集積がまちを支える。地域の市民や市民の力を結集することに取り組むことです。

長崎市役所にて

現地視察です。長崎市まちぶらプロジェクトにより整備された場所です（中島川・寺町・丸山エリア）まちぶら案内所　もてなしやです。また、古民家を補修して拠点としている場所もあり、それぞれのエリアの整備を図っていました。

他に新大工エリア、浜町・銅座エリア、館内・新地エリア、東山手・南山手エリアと五つのエリアをそれぞれのコンセプトで計画的に整備されていました。

主な質疑

質問：地域力によるまちづくりとは具体的にはどのようにするのですか？

答え：町の人たちが、まず、集まり話をして、その中に実行者、計画者、専門家を入れて、話しの場を作る。その後に専門家が計画を立て、次の会議の意見をまとめ、そして計画をつくるのです。

質問：土浦市と同様に長崎市も「中心市街地活性化基本計画」は施行されていると思いますが、長崎市まちぶらプロジェクトは「長崎市中心市街地活性化基本計画」との関連はどうのようになっているのでしょうか？

答え：長崎市も「中心市街地活性化に関する法律」の平成27年に認定を受けておりますので、長崎市まちぶらプロジェクトは長崎市中心市街地活性化基本計画に基づいて予算措置等は行われ、実行されるものです。

視察先	福岡県中間市
視察日	平成 30 年 11 月 13 日
内　容	移住定住施策（空き家バンク）について
目　的	土浦市の人口減少の歯止めのための一つの手法として、空き家対策としての中間市空き家バンク制度は市自らが不動産会社のように仲買をするという手法を土浦市に導入できるよう議論するべきと思われます。
説明者	建設産業部　都市計画課　住宅対策係

福岡県中間市、移住定住施策（空き家バンク）について

中間市は筑豊炭田の一角であり、エネルギー革命により、炭鉱が閉鎖になり人口が減少しました。その当時の炭鉱労働者が大量に退職し、空き家が多く発生したことが発端だと思われます。空き家とはいえ住宅の仲買を中間市がしなければならないほど事態は深刻なのだろうと推測されます。空き家問題の具体的な解決方法は土浦市にとっても参考になる事例と思われます。

中間市議会議場

会議室にて説明を受ける

主な質疑

質問：人口減少が移住定住施策（空き家バンク）を実施している大きな理由と思いますが、市自らがやらなければならない理由はなんですか？

答え：炭鉱で生きてきたまちですので、炭鉱の閉鎖とともに炭鉱労働者の失業者も増え、炭鉱労働者の住宅に住む、多くは、中間市に残り高齢化し、その後、空き住宅が大量に発生し、今後も増加する見込みです。そのため、このような制度を発足させました。

質問：中古住宅を購入したときに、住宅を解体して立てなければならないと高くつ

くように思いますが、いかがでしょう

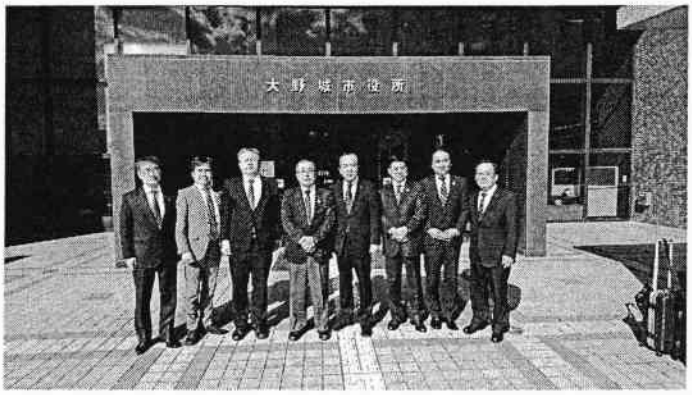
答え：空き家バンクで購入された方には、新築の時に解体費用に対する補助も150万円を1回を限度として補助金があります。

質問：中間市が空き家を紹介して、市民に頼まれても売買に関わらないのですか？

答え：売買は中間市と協定した不動産会社又は個人が行います。中間市が直接売買に関わることは決してありません。

視察先	福岡県大野城市
視察日	平成 30 年 11 月 14 日
内　容	大野城市まちなかわくわくパビリオンについて
目　的	土浦市の中心市街地活性化のための一つの手法として、商工会議所、事業者、市民を主体に大野城市が協力し、民間主体で、歴史資源を生かした観光等の活性化について、土浦市においても、予算削減のおり、参考にし土浦市に導入できるかを検討する。
説明者	一般社団法人　大野城市にぎわいづくり協議会

大野城市、おおのじょうしまちなかわくわくパビリオンについて



大野城市は、福岡市のベッドタウンとして、交通の便もよく、今も、毎年人口が増加しています。人口が増加している数少ないまちとして、うらやましいば

かりです。したがって、予算も右肩上がりで、そのためか、これまでは、白村江の戦につながる7世紀の水城の史跡等を有していながら、観光に力を入れてこなかったとのことですが、大野城市と民間が協力をして、土浦市観光協会的な組織運営をしているように思われました。

内田会長が質問をしています。

質問：土浦市もそうですが、他のまちにも観光協会というのがありますが大野城市にはないのでしょうか、又、不都合はありませんか？

答え：大野城市には観光協会というのはありません。その代わりと言ってはなんですが、一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会が担っています。

質問：7世紀の白村江の戦の後につながる大野城、水城の史跡等の価値ある歴史資産を生かしたイベント等はありますか？

答え：大野城を歩く「わくわくウオーク大野城」というのがありますが、史跡を生かしたイベントは、まだまだこれからというところです。

質問：2018年9月23日から12月18日という期間3か月の間にイベントを続けるのには、予算とか人員が足りているのかなという気がするのですが？

答え：大野城市としてはイベントのボリュウムの割に人員、予算等が適切かどうか、今後の課題ではないかと考えています。

創政会

行政視察報告書

平成１１月１２日～１４日

長崎市・中間市・大野城市

内田卓男

長崎市・まちぶらプロジェクト

陸の玄関口・長崎駅周辺と、海の玄関口・松ヶ枝周辺の整備により町の形態が大きく変わろうとしている中、歴史的文化や伝統に培われてきた中心部である『まちなか』において、この１０年を契機に両玄関口と連携させながら、賑わいを再生しようとするもの。

長崎駅の東方の新大工から大浦に至るルートを『まちなかの軸』と設定し、その間を五つのエリアに、それぞれの個性や魅力の顕在化を図る整備をソフト施策と併せ進めている。

まちなか軸を基軸として各エリア間の回遊性を高める環境整備を行い、両玄関口周辺施設との連携軸により、『まちなか』への誘導を図ろうとするもの。

感想

担当職員が現地を徒歩にて案内してくれた。眼鏡橋等の観光名所を含め、その意気込みを感じることができた。

人通りは多く、夕方の曇天のせいか、印象が薄かった。

両玄関口の整備が完成した暁に、もう一度その成果を見てみたいものだ。

中間市・移住定住施策(空き家バンク)について

中間市は、福岡県の北部、北九州市の西隣に位置する。
明治から昭和にかけて、石炭産業の隆盛により昭和３３年市制を施行した。
現在はエネルギー革命により人口が減少したが、北九州市の衛星都市として自立している。
人口は昭和６０年５０．２９４人をピークに現在４１７９６人と、老年人口は３５％。
面積１６㎢と狭い市域であり、今ある空き家、今後も増え続ける空き家を有効活用して若年・子育て世帯の移住を促進し、地域の活性化につなげるのが目的だ。
平成２６年度、ゼンリンに委託して空き家の調査・３１０件
空き家の不良度調査結果、３０３件のうち、売れる・貸せる物件１７４件　　廃屋・４８件　　建築中・解体・居住中８１件
平成２７年度４月から、所有者と利用希望者のマッチングを。

結果・

	登録件数		成約件数	
	売買	賃貸	売買	賃貸
２７年	６０	３	２４	１
２８年	４３	１	２５	１
２９年	３４	２	３２	２

●空き家バンク物件購入を条件に

１：中古住宅購入補助制度
子育て若年世帯が移住定住目的は２５万円

２：中古住宅リフォーム補助制度
同上の目的は３０万円

３：中古住宅購入後に解体し、新築するための補助制度
同上の目的に購入後に解体、住宅新築には１５０万円

●住み替え補助金制度

１：高齢世帯に属する方が市内の高齢者住宅・福祉施設・空き家バンク物件へ住み替えした場合、家財処分費用を含み引っ越し費用に５万円の補助。

２：老朽危険家屋等解体補助金制度
老朽危険家屋の解体工事にその経費の二分の一以内上限額５０万円

平成２９年度補助金申請

中古住宅購入補助制度	２件
中古住宅リフォーム補助制度	２件
解体し、新築するための補助制度	５件
住み替え補助金	０件
老朽危険家屋等解体補助金	６件

『感想』

全国の自治体の悩みは相当のものであることを再認識した。解体費用まで、補助していることにはびっくりした。補助金をもっと精査して土浦市でも実施する必要アリ。

大野城市・まちなかわくわくパビリオン

人口 100.069 人　　面積　26.89 ㎢

大野城市は福岡市に隣接するベットタウンとして急速に人口が増加、歴史的史跡が多いにもかかわらず、これまで観光事業等には積極的ではなかった。

平成２７年度に、市内のお店や自然、史跡などの地域資源を活用した様々な体験プログラムを市内の至る所で開催、その魅力を体感させることで、街に賑わいを生み出そうとするもの。

初年度は、２７のプログラム、総事業費約５３０万円、参加・来場者数約１２，５００名。

平成２８年度より「(一社) 大野城市にぎわいづくり協議会」を立ち上げて実施し、３４プログラム、参加・来場者数約１７，０００名、平成２９年度は３５プログラム、約１５，０００名の参加・来場者数を数えるまちづくりイベント。

行政と参加事業者を結ぶ結節点が「一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会」であり、多くの団体や市民がこの事業の企画運営に関わっている。

このことは、参画者を増やすおおきなカギ、まさに、市民協働のまちづくりであった。

『感想』

それぞれイベントが大変個性のあるものだが、まとまりが心配。

過去に、視察先の議長から土浦市のホームページを見て、こんなにイベントの多い市は少ないですよと言われたことがあったことを思い出した。その中身の精査も大事だ。

行政視察報告書

長崎市・中間市・大野城市

（平成３０年１１月１２日～１４日）

創政会

報告者　　矢口　清

平成３０年１１月１２日から１４日まで長崎県長崎市・中間市・大野城市を視察しましたので報告します。全体の報告書については、創政会の小坂博氏の報告書に同じです。そちらを参考にして下さい。本報告書は、報告者の所感のみ,まとめたものである。

■長崎市の「まちぶらプロジェクト」

日本の地域別将来推計人口（昭和２５（２０１３）年３月）によると長崎市の人口は、平成５２（２０４０）年には、３３万１千人と推計されており、平成２２（２０１０）年の国勢調査人口の４４万４千人と比較すると、１１万３千人、率にして約２５．５％の減となる事が予想されています。また、人口の減少は、消費市場の減少は、消費市場の規模の縮小を招くと共に、産業を担う労働力人口の減少により地域経済が縮小し、さらに、地域コミュニティの機能が低下するなど社会全般にわたって影響を及ぼす事が危惧されています。

このようななか、現在、平成２３（２０１１）年度から平成３２（２０２０）年度までの１０年間のまちづくりの指針となる「長崎市第４次総合計画」において、市民、企業、行政が力をあわせて総合計画」を推進する事で、人口減少に歯止めをかけ、平成３２（２０２０）年度の長崎市の人口を４２万人として基本フレームを設定し、「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」を将来の都市像としてその実現に取り組んでいます。

長崎市の「まちなか」は、歴史及び文化遺産の集積と商業業務・公共サービスなどの集積があり、長崎市を牽引するエンジンにあたる地域です。

九州新幹線西九州ルートの着工認可や国際線の受け入れ体制の強化に伴い、長崎駅周辺が「陸の玄関口」として、松が枝周辺が「海の玄関口」として整備が進もうとする中、長崎の「まちなか」も、これまで以上に魅力に磨きをかけて賑わいを高める必要があります。

そこで、新大工から浜町を通り大浦に至るルートをまちなか軸として設定し、この軸を中心とした５つのエリアの魅力の顕在化や、回遊性を促す今後１０年間の取り組みを「まちぶらプロジェクト」として取りまとめ、平成２５年度から本格的にハード・ソフト両面から整備を進めているところです。

■ 中間市移住定住施策

中間市は、福岡県の北部に有る市。筑豊炭田の一角をなし、エネルギー革命による閉山等で一時人口が大きく落ち込んだが、その後北九州都市圏のベットタウンとして再生した。

東と南は北九州市八幡西区に、西は鞍手郡鞍手町及び遠賀郡遠賀町に、北は遠賀郡水巻町にそれぞれ接している。市域のほぼ中央を南北に貫流する１級河川遠賀川によって、川西と川東の２つの地区に分けられている。

東部地域には住宅や商業施設が広がり、全人口の約９０％がこの東部地域に集中している。

一方、西武地域には農耕地や公園などの緑地が広がっており、一部では工業団地も立地している。

明治時代から昭和時代にかけて、この地で産出される石炭が近代産業を支える重要なエネルギー源として利用されるようになり、筑豊炭田から産出される石炭は遠賀川や堀川に往き来する「川ひらた」と言う小型の舟を使って輸送されていた。１８９１年に筑豊本線、１９１２年に香月線が開通すると鉄道による大量輸送が可能になり、中間は炭鉱の町として全盛を誇った。

新手・大熊・岩崎などの炭鉱が相次いで開発された。１９１４年には大正鉱業株式会社が事業を開始した。

戦後、様々な行政事務の見直し進められるにあたり、基礎自治体の適正な規模も見直される動きが起こった。

「エネルギー革命」によって石炭の需要は激減し、その結果石炭産業に依存していた中間市は大きな打撃を受け、１９６４年１２月の大正鉱業株式会社を最後に市内の炭鉱は全て閉山し、この頃の市の人口は３４，０００人を割るほどまで落ち込んだ。

昭和３０年代後半４０年代にかけて、中間市は炭鉱の町から脱却して北九州市経済圏の住宅都市としての再生を目指し、「通谷周辺の住宅団地化」「大正鉱業跡地の再開発」「川西地域の工業団地化」

を３つの柱に掲げた。

大規模な宅地開発と共に同市の人口は５万人を超えていたが、１９９０年代後半から減少幅が大きくなり、２０１９年１２月の住民基本台帳では約４万２千人となっている。

中間市空き家バンク事業（平成２７年４月～）は、空き家所有者と利用希望者のマッチングを行う制度である。

中間市の空き家バンクの特徴は

１．　中古住宅購入補助金制度

子育て世帯や若年世帯が、移住・定住を目的に、空き家バンク物件を購入した場合に**２５万円**の補助を行います。

２．　中古住宅リフォーム補助金制度

子育て世帯や若年世帯が、移住・定住を目的に、空き家バンク物件をリフォームする場合に**３０万円**の補助を行います。

３．　中古住宅購入後に解体し、新築するための補助金制度

子育て世帯や若年世帯が、移住・定住を目的に、空き家バンク物件を購入後に解体し、その土地に住宅を新築する場合に**１５０万円**の補助を行ないます。

土浦市の場合は、今後も人口の減少傾向は続き、平成５２年には１１７，７３６人とピーク時と比べ約２割減少する事が予測されています。

老年人口は、年々増加し平成５２年には、４３，３４４人と４０年間で約２倍となる予測で、高齢化率も平成３７年には３０％を超え、平成５２年には３６．６％に上ると推計されています。

当然空き家も増加しており、大変憂慮されるところであります。

この様な状況に鑑み、国では「空き家等対策の推進に関する特別措置法」を制定した。

空き家法に於いては、所有者等が空き家等の適切な管理について第一義的に責任を有する事を前提としつつ、市町村が空き家等対策に関して必要な措置を講ずるよう努めることとする。

本市でも空き家対策については研究して行かねばならない。

■大野城市「まちなかわくわくパビリオン」について

大野城市は福岡市の南に隣接市、古くから博多と大宰府を結ぶ交通の要所として繁栄し、今も国道３号や北九州自動車道、福岡都市高速道路、ＪＲと西鉄大牟田線が通り福岡空港にも近い、交通の便に恵まれた地域です。一方で、日本最古の朝鮮式山城「大野城跡（国指定特別史跡）」の他、「水城跡」など歴史遺産や、四天王寺山、乙金山、などを中心に豊かな緑も残っているため、住みやすい街として人口増加が続いており、平成２８年８月には人口１０万人を突破し、平成２９年には市政４５周年を迎えた。長年に渡りコミニュティと行政が一体となり進めてきた「共動のまちづくり」掲げて地域の活力創出を進めている。

平成２３年度に九州大学との官学連携プロジェクトとして、地域資源の発掘、地域力活用新事業について調査研究し商工会と市が連携して平成２４年度より事業を実施した。

事業内容のプログラムの主なものを挙げると、

①三輪車３時間耐久レース（自動車学校の教習コースを使っての三輪車レース。併せて市内飲食店ブースの出店やステージイベント）などを行ない毎年恒例の行事となり多くの賑わいを見せている。

②山歩き（山歩きガイドの案内の下、市内の山を歩くプログラム）で、６０代～７０代を中心に人気がある。ガイドボランティアの養成講座も行っている。

③婚活・恋活（山歩き、料理教室を通じて交流を深めるプログラム。多くのカップルが成立し結婚にも結び付いている。）

④まち歩き、ワンスプーンで街のランチを試食（飲食店のランチを試食しながら、ガイド付のまち歩きを楽しむプログラム。参加費１０００円の内５００円を商品としてキャッシュバックし、気に入ったお店でショッピング・ランチを楽しんでもらうプログラム）

⑤シャッターアート事業（いたずら書きで汚されてっしまったまちのシャッターや壁を、地域の

方々と一緒に美しく塗り替える、まちづくりイベント事業）

⑥怪盗ロイチェの逆襲（市の協会を貸し切り、さまざまな場所に散らばったヒントを集め謎を解くゲームを開催。普段なかなか入れないチャペルでスタッフによる寸劇やダンス、歌を披露し絶大の人気がある。

その他ご当地メニューとして開発した「大野城鶏ぼっかけ」は地域で昔から食べられていた「ぼっかけ」を現代風にアレンジし、「大野城ぼっかけ」として市内飲食店で提供。またボランティア団体「大野城鶏ぼっかけ隊」イベント出店やＰＲ活動も活発に行っており、地産地消に繋がる取り組みがなされている。

本市に於いても、これらの地域資源、地域人材の発掘、育成、市民協働のまちづくりを参考にして、賑わいづくり、交流人口の増加、地産地消に繋がる取り組みを研究し、活用していきたいと思います。

創政会視察報告書　　海老原　一郎

平成３０年１１月１２日１３日

１．長崎県長崎市　まちぶらプロジェクトについて

・土浦市とは比較できない観光都市長崎市でも、中心市街地を５つのエリアに分けて、それぞれの個性を活かした街並み整備をして、更にそれらと、陸の玄関口長崎駅、海の玄関口長崎港の両方の整備もして、繋げようとしています。土浦市でも、アルカス土浦や今後整備される土浦駅ビルの他にも、特徴を持たせたまちづくりや、特色を活かしたＰＲが必要と感じました。また、現地視察で訪れた、まちぶら案内所やおもてなしトイレを見ると、土浦市でも、サイクリングを中心とした観光客を増やそうとしていますが、サイクリストが気軽に立ち寄れる施設の整備が必要と感じました。

２．福岡県中間市　移住定住施策（空き家バンク）について

・空き家バンク制度は、日本全国各地で行われているが、空き家を移住先に進めている市は少ない。また、中間市では、移住を目的に空き家バンクを購入したり、リフォームする時や、老朽危険家屋の解体に、補助金を出しています。土浦市でも、平成３０年度から空家対策推進条例を制定し、空家対策係を設けたりして、今までより、空家対策は進んできているが、更に進めるには、補助金を検討すべきと思いました。

行政視察報告書

日　程　平成30年11月12日～14日
場　所　・長崎県長崎市
　　・福岡県中間市
　　・福岡県大野城市
報告者　篠塚　昌毅

長崎市「まちなかプロジェクト」

長崎市が平成25年度から10年間を計画期間として策定した「まちなかプロジェクト」は歴史的な文化や伝統に培われた長崎の中心部の新大工から浜町を経て、大浦に至るルートを「まちなか軸」と設定し、軸を中心とした新大工エリア、中島川・寺町・丸山エリア、浜町・銀座エリア、館内・新地エリア、東山手・南山手エリアの5つのエリアにおいて、それぞれの個性や魅力の顕在化などを進めるための整備をソフト施策と合わせて進めています。計画期間は長崎駅の整備事業が完了を予定している平成34年度までを設定しています。計画を進めるにあたっては「長崎市中心市街地活性化基本計画」「都市再生整備計画」「長崎市中央部・臨海地域（まちなかエリア整備計画）」などに位置付けながら、財源の確保に努めるとともに、法令上の特例や税制の優遇など国の支援策の活用を図っています。大規模で長期的な事業計画を推進するにあたり一番重要な点は行政と民間企業、そして市民が一体となって様々な事業を推進している点だと思います。上記の写真の地域力での賑わいづくりの仕組みのように、地域・大学・行政・企業・金融機関とまちなか事業推進室が協力体制を構築し事業の実施を希望している実施者とのマッチング事業を行い、実施者の計画実現をバックアップしている点だと感じました。現地の視察では長崎の観光客向けのお土産物販売している「もてなしや」とコンビニの二階に休憩所を設置した現場を見て感じたことは、スタッフの笑顔でのお客様をもてなす姿勢と利用者に居心地の良い環境を提供している点でした。お店の名前の通りおもてなしの心を感じるお店づくりこそがこの事業の本質でないかと思います。土浦市でも推進している「土浦市中心市街地活性化事業」も環境整備とソフトの施策が一体となって初めて活性化が達成できると思いますので、長崎市の事業を参考として土浦市のまちづくり事業に対する提言を実施していきます。

中間市「移住定住施策・空家バンク事業」

福岡県中間市では「中間市を元気にする4つの柱」として1．移住定住2．子育て3．創業支援4．観光事業を掲げて様々な施策を展開しています。今回の視察は、その中の定住施策・空き家バンク事業について中間市役所の担当の皆様から説明を受けました。空き家バンク導入の経緯は平成26年度に市内全域を対象に空き家を認定するために一定の判断基準を設け調査を実施し、310件を空き家と認定しました。その空き家の情報を民間会社に協力を得て、住宅地図帳を作成、その後、空き家不良度測定調査を行い、売れる貸せる物件をデータベース化しました。その情報をもとに市と協定を結んだ不動産協会と空き家所有者と利用希望者のマッチング事業を実施して、平成27年度から平成29年度までに売買・賃貸物件の成約件数85件の実績を上げています。また、空き家バンク物件購入を推進するために・中古住宅購入補助制度・中古住宅リフォーム補助金制度・中古住宅購入後に解体し、新築するための補助金制度・住替え補助制度・老朽危険家屋等解体補助金制度を設けて移住定住の促進事業を推進していました。この事業空き家の対策と定住促進には大変有効な事業だと感じたので、土浦市にも導入を検討するように政策として研究・提案していきたいと思います。

大野城市「おおのじょうまちなかわくわくパビリオン」

福岡県大野城市「おおのじょうまちなかわくわくパビリオン」です。大野城市は福岡市に隣接するベットタウンとして急速に人口が増加した市なので、これまで観光事業等には積極的な取り組みを実施していませんでした。そこで、平成27年度に、市内のお店や自然、史跡などの地域資源を活用した様々な体験プログラムを市内の至る所で開催することで、その魅力を体感してもらい、街全体で賑わいを生み出すイベントとして始まりました。初年度は27年10月1日から12月6日までの期間で、27のプログラム、総事業費約530万円、参加・来場者数約12，500名を数えました。平成28年度よりこの事業を主催する「(一社)大野城市にぎわいづくり協議会」を立ち上げて実施し、平成28年度に34プログラム、参加・来場者数約17，000名、平成29年度は35プログラム、約15，000名の参加・来場者数を数えるまちづくりイベントとして地域に根づいています。この事業の特出する点は、行政と参加事業者を結ぶ結節点を「一般社団法人大野城市にぎわいづくり協議会」が担い、多くの団体や市民がこの事業の企画運営に関わりを持つことができる点だと思います。イベントを盛り上げ、地域に拡大していくためには事業への参画者を増やすことが成功のカギになるのではないかと思いますので、大野城市の事業は市民協働のまちづくりを推進していくための大きなヒントを与えてくれました。また、市のふるさとにぎわい課で導入しているスマートフォン・タブレット用の無料アプリ「大野城市まち歩きアプリ」は市内のパン屋さんを巡るコースなどの町並みを案内するコースを設置し、町並みを探検しながら、各箇所に有る QR コードを読み込むことによりポイントを集め、貯めたポイントで市のオリジナルグッズと交換できるシステムも大変参考になりましたので、土浦市に導入できないか研究していきたいと感じました。

感想　　小坂　博

①長崎市の長崎市まちぶらプロジェクトについて

街の人たちのまちづくりの手法として、集まり話をして、その中に実行者、計画者、専門家を入れて話しの場を作る。その後に専門家が計画を立案、次の会議の意見をまとめ、計画をつくったということでした。これは私たち土浦市にとっても、議員にとっても参考になる事例と考えられます

②福岡県中間市、移住定住施策（空き家バンク）について

中間市は筑豊炭田の一角であり、エネルギー革命により、炭鉱が閉鎖になり人口が減少しました。その当時の炭鉱労働者が大量に退職し、空き家が多く発生したことが発端だと思われます。空き家問題の具体的な解決方法は土浦市にとっても参考になる事例と思われます。

③大野城市、おおのじょうしまちなかわくわくぱびりおんについて

大野城市は、福岡市のベッドタウンとして、交通の便もよく、今も人口が増加しているということで、うらやましいばかりです。そんな中、史跡等を有していながら、観光に力を入れてこなかったとのことですが、民間の方を主に大野城市協力していくという理想は理解できますがが、民間主体では、若干荷が重いように感じました。土浦市においては、すでに実施されていることが多く、参考程度だと思われました。

土浦市議会　創政会　行政視察報告書

期日　平成３０年１１月１２日から１１月１４日

創政会　報告者　下村　壽郎

創政会行政視察
報告者：下村　壽郎

視察日：平成３０年１１月１２日（月）～平成３０年１１月１４日（水）

視察１日目　　１１月１２日（月）
視察先：長崎県長崎市　人口：４３０千人　面積　407Km²
　　視察項目：まちぶらプロジェクトについて

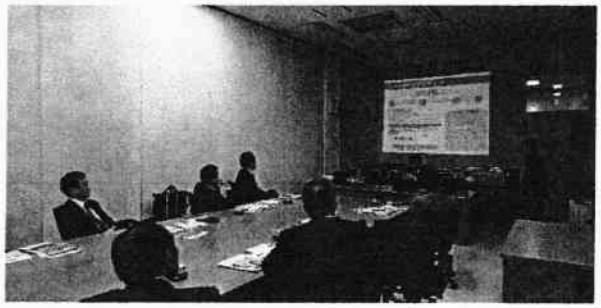
「まちぶらプロジェクト」の策定にあたって

１．このプロジェクトの目的は、「陸の玄関口」長崎駅周辺や「海の玄関口」松が枝周辺の整備により、これからの１０年間で大きく変革するであろう長崎のまちにおいて、歴史的な文化や伝統に培われた長崎の中心部である「まちなか」においても、同時期に整備も含めて賑わいの再生を図ろうとするものとしています。・・・・・中略

２．対象地域は<５つのエリア>
　「まちなかの軸」として新大工から浜町を経て大浦へ至るルートを設定。
軸を中心に　新大工エリア　　中島川・寺町・丸山エリア
　　浜町・銅座エリア　　館内・新地エリア
　　東山手・南山手エリア
５つのエリアにおいてそれぞれの個性や魅力の顕在化をなどを進めるための整備をソフト施策と併せて進める。

３．計画期間　　長崎駅の整備完了予定である１０年後を捉え、平成２５年度から平成３４年度までの１０年間を計画期間としている。

４．計画の構成
　１）エリアの魅力づくり～エリア内のまちづくりの方向性、特色活かす、魅力の向上等の取り組み
　２）軸づくり～「まちなか軸」を基軸、各エリア間の回遊性を高める環境整備、「陸・海の玄関口」周辺施設との連携軸の整備により「まちなか」への誘導
　３）地域によるまちづくり
　　地域や市民自らが企業や行政、ＮＰＯ等の多様な組織と連携を図りながら、まちを守り、育て創るために行動し、その集積がまちなかを支えるような地域力や市民を結集する取り組みを進める。



研修：長崎市の担当室長から説明

５．計画の進め方

「まちぶらプロジェクト」の推進、中心市街地活性化に関する法律第９条に基づく「長崎市中心市街地活性化基本計画」、土地再生特別措置法第４６条等をはじめ国が制定する制度などに位置づけながら、財源の確保、法令上の特例や税制の優遇などの国の支援策の活用・・・・

６．計画の見直し

社会情勢等の趨勢、あるいは地域との話し合いなどの中で、新たな取り組みとして決定した事項、または、修正等が必要になった事項等に関しては、随時、追加修正等を行いながら、地域と共に計画を進める。

以上が、このプロジェクトの概要である。

「陸の玄関口」長崎駅周辺や「海の玄関口」松が枝周辺の整備と併せて長崎のまちにおいて、歴史的な文化や伝統に培われた長崎の中心部である「まちなか」においても、同時期に整備も含めて賑わいの再生を図る。長崎市は県庁所在地でもあり、国・県の支援が大きくプロジェクトの年間予算は３７億から４０億の規模とのことでした。

「まちぶらプロジェクト」を始めるに当たり、全体構想の策定では産学の皆さんともに意見交換がなされたとのことでした。

５つのエリアには、それぞれの個性や魅力の顕在化などを進める「まちづくりの方針」が掲げられ、行政が行う整備と地域が行うまちづくりについて官民一体となった計画が策定されています。

写真上は、中島川・寺町・丸山エリア内のまちぶら案内所です。案内所では、エリア内有名店の商品を陳列宣伝や施設などの案内をしていただけます。

写真下は、まちなかの様子ですが無料休憩所を設置しているお店があります。

このプロジェクトは、各エリアの魅力を推進してゆくために企業や民間の方が考えて実施するプロジェクトとしているため、定型的で期間を設定しない進化型のプロジェクトである。そして長崎市内の交流人口の増加により、仕事を増やすことも考えたプロジェクトと位置付けているとのことでした。

まとめ：行政が進めるハード面の整備と市民が進めるソフト面の整備や新しい感覚を取り入れ、市民の意見（つぶやき）を反映させることに重点を置いたプロジェクトであることに感心しましたが、運営委員会の運営は市民の世話人であり、大きな役割を果たしている事に驚きました。

視察２日目　　１１月１３日（火）

視察先：福岡県中間市　人口：４３千人　面積　16K㎡

視察項目：移住定住施策（空き家バンク）について

空き家バンク導入の経緯

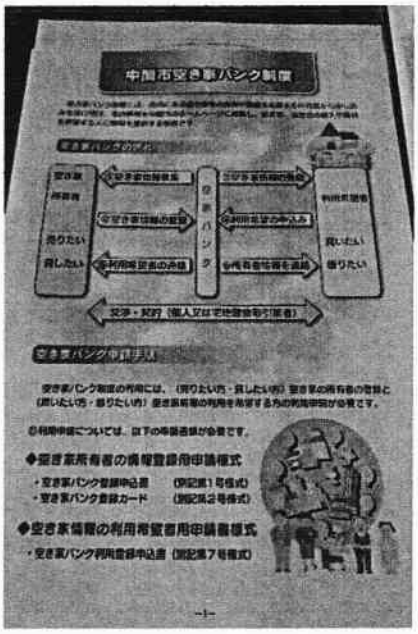
・市内面積１６Ｋ㎡と狭いため住宅地開発が出来ない。また、今後は少子高齢化が進み空き家が増加すると考えられ、この対策のために導入をした。

１．空き家の実態調査の実施

・空き家の調査は、ゼンリン地図を作成している会社へ依頼し、成果品（データ）を含め約４０万円で済んだ。　調査結果：空き家件数　　３１０件

２．空き家不良調査測定調査の実施

空き家３０３件について、国で示す「住宅不良度の測定基準表」に別途、有効活用の可能性欄を設け、売却・賃貸・廃屋等の判定も依頼した。



調査結果：売れる・貸せる　　１７４件

廃屋（建物の価値が低い物件）　　４８件

建築中・解体・居住中　　８１件

中間市空き家バンク事業

〇事業概要

空き家所有者と利用希望者のマッチングを行う。

中間市空き家バンク運用実績

平成２９年度	登録件数	売買３４件	賃貸２件
	成約件数	売買３２件	賃貸２件
平成２７年度	登録件数	売買６０件	賃貸３件
	成約件数	売買２４件	賃貸１件

１．　空き家バンク物件募集

ア、　売れる・貸せる物件所有者　１７４件に対して「空き家バンク制度のお知らせ」文書を送付

イ、市外・県外の所有者に対して「空き家バンク制度のお知らせ」文書を送付

ウ、空き家特措法１２条に基づき、空き家の適正な管理等の通知と「空き家バンク制度」活用の案内

２．空き家情報の発信

中間市ホームページで情報を発信している。

市内外のイベント参加による物件情報の展示

福岡県民体育大会で物件情報を展示、近隣市町村のイベントで協働し物件情報を展示、さらに、東京都内での住宅フェアへも参加し物件情報を展示している。

研修：説明は中間市都市計画課　住宅対策係

移住→空き家バンク物件購入制条件にした補助金制度

1.中古住宅購入補助金制度　25 万円
2.中古住宅リフォーム補助金制度　30 万円
3.中古住宅購入後に解体し、新築するための補助金制度 150 万円
4.住替え補助金制度５万円
5.老朽危険家屋等解体補助金制度５０万円

補助金制度には、条件がありますが上記の 1～3 は、子育て世帯や若者世帯が、移住・定住を目的に、空き家バンク物件を購入した場合、4 は市外から市内の高齢者を対象、５は解体の場合

以上が移住定住施策（空き家バンク）についての概要です。

まとめ：この事業の導入の経緯説明で、実態調査実施のスピードに驚きました。ゼンリン地図作成をしている会社へ調査実施を依頼し成果品を含めて期間が平成２６年８月１日から平成２６年８月２９日と１か月間で調査が済み費用は約４０万円と格安である。まさに民間活力導入の良い事例でありこれを採用する行政職員の判断の素晴らしさが目立ちました。
この事業の特徴と思われるのは、空き家実態調査のデータをフル活用し、ステップ２の空き家不良測定調査でも調査機関の短縮となり、この調査結果により　売れる・貸せる物件　　廃屋　　建築中・解体・居住中　　の３つに仕分けができた。これにより空き家情報の発信が可能となるだけなくステップ３の中間市空き家バンク事業へと迅速に進展したと考えられます。

移住→空き家バンク物件購入制条件にした補助金制度については、対象者がすべて市外の方となるので、「空き家バンク制度」を進める中で近隣市町村と競争となってしまう恐れがあるのと同時に市内に以前から住んでいた市民の反感をどのように避けるか今後の課題であると考えられます。
このことについて、質問をしたところ今後の課題として現在検討しているとのことでした。
中間市の事業が土浦市でも大いに参考になると考えられます。

中間市役所屋上から市役所前の遠賀川

炭鉱の町：ボタ山が見える

視察３日目　　１１月１４日（水）
視察先：福岡県大野城市　人口：１０１千人　面積　27K㎡
視察項目：おおのじょうしまちなかわくわくパビリオンについて

■事業概要
平成２７年度まで
・お店や自然、史跡などの地域資源を活用した様々な体験プログラムを市内のいたるところで開催することで、その魅力を体験してもらい、まち全体で賑わいを生み出すイベント
・開催期間　　平成２７年１０月１日～１２月６日
・プログラム数：２７プログラム
・総事業費：約５，３００千円
（内訳）商工会事業費　２，８００千円
市補助金　　１，５００千円
広告協賛金　　１，０００千円
・参加者数：１２，５０９名
・パンフレット作製数：20 万部（市内全戸配布＋近隣市外へ配布）

平成 28 年度
・開催期間　　平成２８年１０月１日～１２月２３日
・プログラム数：３４プログラム
・総事業費：約２，８０千円
（内訳）商工会事業費　商工会は事業主体を辞めた
市補助金　　１，９６５千円
広告協賛金　　８６５千円
・参加者数：１６，８１１名
・パンフレット作製数：10 万部（市内全戸配布＋近隣市外へ配布）
※市内全戸配布を２回から１回に

平成２９年度
・プログラム数：３５プログラム
・総事業費：約２，２４８千円
（内訳）商工会事業費　商工会は事業主体を辞めた
市補助金　　１，４０３千円
広告協賛金　　８４５千円
・参加者数：１４，１４９名
・パンフレット作製数：8 万部（市内全戸配布＋近隣市外へ配布）
※市内全戸配布を２回から１回に
平成２９年度までの経緯の中で平成２８年度から（一社）大野城市にぎわいづくり協議会が主催となる。
大野城市商工会は主催団体を辞め新たに「にぎわいづくり協議会」が主催。
その後、「わくわくパビリオン」開催

わくわくパビリオン開催の流れ

・にぎわいづくり協議会の役割わくわくパビリオン開催

新年度スタートの４月から、「わくわくパビリオン」の参加希望団体、個人、事業者を募集

参加希望団体、個人、事業者の企画内容のチェックをして参加者を決定

参加希望団体、個人、事業者への支援～ボランティア団体や個人の紹介その他

「わくわくパビリオン」開催期間のイベント紹介パンフレット作製

「わくわくパビリオン」全体の事務局

あくまでも各イベント実施は参加団体、個人、企業が主催、イベント費用負担も同様。

にぎわいづくり協議会は事務局として連絡調整などを行っているようでした。

まとめ：にぎわいづくり協議会については、市内各地域で行われてきた祭り的なイベントを含め、金銭的な支援を除き人的（ボランティア団体等）の支援の手助けを行う事で各地域のイベントを継続させる。かつ、新しく企業や団体が開発するイベントにおいても人的支援のお手伝いをしているように思われました。「わくわくパビリオン」とは、１０月から１２月に市内全域で行われるイベントについて全体的な表現をしたと理解しました。このように各地で行われるイベントを一元的に把握することは大切であり各イベントで人手が不足しているなどの情報があれば、主催団体へボランティア団体などの紹介ができる仕組みは重要となるでしょう。

大野城市議会

研修

大野城市心のふるさと館

１階　遊びの場

２階　学びの場　大野城市の歴史

３階　調べ場

１階の遊びの場、こども体験ギャラリー

創政会　行政視察報告書

長崎市・中間市・大野城市

島岡　宏明

長崎市　「まちぶらプロジェクト」

長崎と言えば異国情緒豊かな観光地であり、また、第二次世界大戦では原子力爆弾を投下された町というイメージを持っていました。今回、「長崎市まちぶらプロジェクト」について勉強をさせていただきましたが、これほど日本でも有数の観光のまち長崎でも、将来、10 年先の事を考え、この 10 年を大きな契機ととらえ、賑わいの再生を図ろうとする整備計画は土浦市としても十分に見習うべき事がありました。

市内を 5 つのエリアに分けてそれぞれの個性、魅力の顕在化を進めるための整備をソフト面をも重視しながら考えていく事は斬新で尚且つ、今までの要素も重要にするというものでした。地域や市民や企業や行政、ＮＰＯとの多様な組織と連携を図りながら町を守り、育て作るために行動し、その集積が町なかを支える地域力や市民力を結集する取り組みを進めています。

実際に、私も長崎の町を歩いてみましたが、とても洗練された街並みのなかに新しいものが混在するというとても魅力的な街に進化している様子を見て取れました。

私は食べる事が好きなので昔からあるカステラ、またそれをアレンジした食べ物にもすごく興味があり、実際に食べてみるとすごくおいしくいただきました。

豊富なおいしい食べ物が町ブラの効果を一層高めていることも見逃せない事だと思いました。

土浦市は長崎に比べて観光範囲は狭いので一極に集中していろいろな企画をすれば楽しいまちができるのではないかと思いました。

中間市　「空き家バンク事業」

中間市では市が中心となって空き家バンク事業を平成 27 年 4 月から本格的に取り組んでいます。いかにして空き家の所有者と利用希望者を結びつけるか。その為に中古住宅購入補助金制度 25 万円補助。中古住宅リフォーム補助金制度 30 万円補助。中古住宅購入後に解体し、新築するための補助金制度 150 万円等素晴らしい企画で空き家をかっせいかしようとする試みには特に驚きをもって勉強させていただきました。土浦市でも積極的な補助金を出すことで空き家をなくし、また、人口が増えるような施策を考えるべきだと思います。

大野城市　「まちなかわくわくパビリオン」

大野城市では 633 年白村江の戦いで敗れた日本軍への追い打ちをかけようとする唐・高句麗軍の行く手を阻むために大宰府をなんとしても守るという使命を受け、水城を石垣と共に作り、行く手を阻もうとあの当時では今でも考えがつかないくらいの砦作りをしたまちです。その石垣、水城を町のシンボルとしてわくわくパビリオンを開催の経緯となったのです。

商工会、大野城市、その他関係機関が連携、協力し、プロジェクト委員会を作り、プロジェクト専門部会により、各イベントの実施、企画、運営そして会員事業者がイベントへの参画、報告、協賛、周知、協力を行うという官と民が一体となり、わくわくパビリオンを開催し、市民の皆さんがより快適で楽しい生活が送れるよう、企画がなされておりました。特に自動車学校の教習コースを使っての三輪車三時間耐久レースは興味深いイベントでした。以上のように画期的なアイデアがそこここに見られ、市民の皆様も大変満足しているのではないかと考えます。

土浦市でもわくわくプロジェクトの中のいくつかを参考に開催してはいかがかと考えました。

創政会行政視察報告書　　塚原圭二

長崎県長崎市「まちぶらプラジェクト」について

このプロジェクトは、今後九州新幹線西九州ルートの開通による長崎駅周辺や、海の玄関口として整備予定の松が枝周辺整備により大きく変貌していく中で、点を線で結ぶべく「まちなか軸」を基軸として「商店街・市場を中心としたまち」「和のたたずまいの町」「長崎文化を体験できるまち」「中国文化に触れる食のまち」「異国情緒に触れられる国際交流のまち」の５つのエリアを設定し、それぞれの個性や魅力を引き出し、連携させながら「まちなか」への誘導をはかり、賑わいの再生を図るプロジェクトである。

本市においても、駅前地区・まちかど蔵地区・亀城公園地区が点でしかなく、人の流れが全くないためいかに回遊して頂くかが今後の課題と感じました。

福岡市中間市「移住定住施策（空き家バンク）」について

中間市は、空き家バンク運用実績として、平成27年度から平成29年度の三年間で売買・賃貸登録件数が143件に対して成約件数が85件とこれまで視察を行った中では一番実績を残されている市ではないでしょうか。

その一つとして、空き家不良度測定調査を実施し「売れる・貸せる物件」「廃屋」「建設中・解体・居住中」に分類し、所有者へ空き家バンクの登録の案内をし、「売れる・貸せる」物件に対しては、市内外のイベント参加により物件情報の展示などを積極的に行っていることが、実績に繋がっていると思われる。

本市は800件を超える空き家が存在しており判定も厳しい状況であると思うが、今後さらに増加が予想される空き家に対して、先進事例を参考に進める事で少しでも減少することに期待したい。

福岡県大野城市「まちなかわくわくパビリオン」について

この事業は、大野城市の商店街や自然、史蹟などの地域資源を活用した様々な体験プログラムを開催し、その魅力を体感してもらい町全体で賑わいを生み出す活動である。

平成23年度から市と商工会が主体となって始まった事業ではあるが、平成26年度より補助事業から外れたこともあり、事業費の捻出が課題となってきている。

やはり、事業費頼みの活動の典型的な事案となってしまっているが、新たに、大野城市にぎわいづくり協議会が主催となって活動を始めているが、いかに継続できるかが課題と感じた。

勝　田　達　也

福岡県大野城市　「おおのじょうしまちなかわくわくパビリオン」について

大野城市地域創造部　ふるさとにぎわい課　にぎわいづくり担当係長　大渕雄一朗様

（一社）　大野城市にぎわいづくり協議会　事務局長　北田ゆかり様

日本最古の山城眠る大野城の大野城市は、660年白村江の戦いで百済が唐・新羅連合軍に負け、その後663年日本（倭）が百済復興のために兵力を送り、唐水軍に敗北し、唐の日本襲来に備えた日本最古の山城がある市です。大野城市で創作された大野城物語「タスク岩の伝説」にもそのことが記されています。今回は大野城流おもてなし「おおのじょうまちなかわくわくパビリオン」を主宰している（共催大野城市、後援大野城市商工会・西日本鉄道㈱）（一社）大野城市にぎわいづくり協議会の活動をうかがいました。大野城市内の概ねのイベントを、冊子として掲載し、8万部印刷、市内、近郊へ全戸ポスティングしています。市報への折り込みの場合とポスティングを比べて、読まれる率の高い（と考えられる）ポスティングを行っているとのことです。平成29年度は10月から12月までの期間で35プログラムを実施しました。延べの参加者は14,149名。大野城市は福岡市のベットタウンとして人口の増加している市です。これまで観光には積極的に取り組んでこなかったが、歴史、自然が豊富なことに着目し、観光に取り組むことになりました。観光協会のないためににぎわいづくり協議会が観光部門も担当しています。ほかのまちでも多く見受けられますが事務局長の力量が他の団体や行政などとの関係性を滑らかにし、コンテンツの多いにぎわいづくりの成否を左右します。女性が元気な事務局は成功しているところが多い。組織を縦社会でとらえる男性だとこの業務はかなり困難です。今後の課題は事務局長を含む事務局職員さんが単年度契約であり毎年契約更新をしていること。給与水準はその他団体に準ずるとのことですが、継続事業を担うのであればその改善が必要なのではと感じました。今回の視察目的外ですが市役所隣のふるさとにぎわい館では、赤ちゃんの駅があり、子育てに優しいまちであることを実感しました。

勝田達也

長崎県長崎市　「まちぶらプロジェクト」について
長崎市まちづくり部まちなか事業推進室　室長　飯田恭祥　様
長崎市が推進する「まちぶらプロジェクト」は長崎市中心市街地活性化基本計画に位置づけされ、現在進行中の、陸の玄関口の「長崎駅周辺」と、海の玄関口である「松が枝周辺の整備事」と市の中心部である「まちなか」を連携させながら50年100年先のまちの形の基盤をつくるために目的とした壮大な事業です。計画期間は平成25年度から34年度までの10年間。長崎市は海と山に囲まれた坂の多いまちです。まちなかを歩きながら市の職員さんに話を聞くと、地形的な要因もあり地方都市によく見受けられる郊外の大型ショッピングセンター出店による買い物客の大半が郊外に流出することはないそうです。買い物や飲食は平らな地形の中心に集中しています。エリアは北から「新大工町」「中島川・寺町・丸山」「浜町・銅座」「館内・新地」「東山手・南山手」となり、それぞれのエリアで普段着のまち、粋なまち、長崎文化、中国文化、異国情緒など特徴を生かしたまちづくりを行うものです。まちの形を変えるときに、どこのまちでも課題になるのが地権者の同意です。長崎市は経済的合理性「収益の魅力」によりそれを解決していきました。また時局に乗り遅れないようにしたいと思う地権者の動向を把握していました。福岡市の天神とあまり変わらない賃料を得られることは、狭隘地の市街地ということを勘案しても驚くべき数字です。国の観光立国ショーケースに金沢市、釧路市と共に選ばれていることも追い風です。計画策定の過程で市民の意見をとれだけ取り入れていかせるのかは、どこの自治体でもその重要性は認識していながらなかなか具現ができない課題です。長崎市では市民の「つぶやき」をビジュアル化「形に」していきました。座談会で出る、または吸い上げる「つぶやき」を専門家が次の会議までにビジュアル化していき参加者で共有していくものです。専門家は形にする専門家、建築の専門家、雑誌の専門家、デザインの専門家などなど専門家への費用は5000円／1日で、ありほぼ無償のボランティアに近い形態でした。また参加する市民も20代から40代と参加意欲の高い方々でした。意見は出てもそのままということが多い中でこれはとても参考になりました。そのほかまちなかで開業する希望者には一八銀行による「元気な長崎」応援プロジェクトローンを創り、無担保無保証による1000万円までの貸し付けを行い、まちなかの起業を支援しています。長崎新幹線、20万トンクラスの船舶の入港と大型船2隻の同時係留など大型のプロジェクトとまちなかの魅力磨くことの連携が長崎市をさらに魅力的にしていくことを期待しています。まち歩きでは、市街地の道路の狭隘さ、建物の老朽化が目立つ繁華街では、地震や火災への備えが喫緊と感じました。

勝　田　達　也

福岡県中間市　移住定住施策（空き家バンク）について

中間市建設産業部都市計画課住宅対策係　白石課長　佐野係長

中間市は北九州市まで電車、自動車で約30分のベッドタウンです。筑豊炭田の一角をなし、八幡製鉄所に遠賀川の水を送っていたポンプ遠賀川水源ポンプ室（世界遺産）があります。

空き家バンクは市内の空き家の中で建物の状況の良くないものをリストアップして、宅建協会加入業者と連携し賃貸のあっせんや、建物の解体費用助成、リフォーム費用助成、建築費用助成などを行い他の自治体からの移住定住を支援しています。市外に居住する子育て世代や若年世帯向けに中古住宅購入・中古住宅リフォーム支援。市内の高地や交通不便な地域に居住する高齢者に高齢者住み替え支援をしています。市の HP に掲載されている空き家バンク物件情報を確認したところ、売却済みが多く見受けられて取引が活発なことがわかります。11月15日現在で売買・賃貸併せて108物件の登録がありました。

老朽化危険家屋等解体補助金制度は上限50万円で費用の1/2以内。家屋等の老朽度の判定基準による評定が 100 点を超えるもの、旧耐震基準の木造、軽量鉄骨のもの。これは昨今問題になっている家屋の撤去に有効だと感じました。

様々な施策を行っていますが、しかしながら同様の施策は近隣の自治体でも行っているということで、競争となっています。